

## 【 第8回熊本大学定例学長記者懇談会 】

日 時： 令和4年1月12日（水） 14：00～15：30（予定）

※終了予定時刻は現地での説明を含みます。

場 所： 本部棟1階 大会議室

本学出席者：熊本大学長 小川 久雄（カガワ ヒサオ）

理事・副学長（研究・グローバル戦略担当）大谷 順（オオタニ ジュン）

理事（広報・ブランディング担当）宮尾 千加子（ミヤオ チカコ）

副学長（キャンパスミュージアム担当）小畑 弘己（オハタ ヒロキ）

五高記念館長 伊東 龍一（イトウ リウイチ）

内 容：

1. 平成28年熊本地震により被災した五高記念館（国指定重要文化財）等の復旧状況について

2. その他

※懇談会終了次第、本学所有の国指定重要文化財である五高記念館、化学実験場内にご希望の方を実際にご案内し、復旧工事の状況等についてご説明いたします。

現地でのご説明終了時間は15：30を予定しています。

※新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底した上で開催いたします。

国指定重要文化財

# 五高記念館等の復旧状況

## 創造する森 挑戦する炎

井上雄彦 記す

2022年1月



### 熊本大学における国指定重要文化財の概要



Kumamoto University  
熊本大学黒髪キャンパス

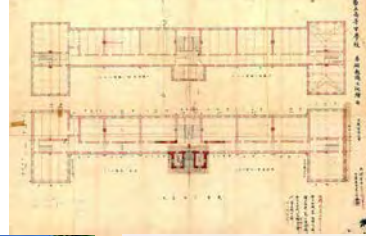


黒髪北キャンパス  
人文社会科学系(文・法)、  
教育学系、一般教養 他

黒髪南キャンパス  
自然科学系(理・工)、  
大学本部 他

①五高記念館 [文化財名称：旧第五高等中学校 本館]

構造・階：煉瓦造・地上2階建て  
 建築面積：921.6㎡  
 延床面積：1,806㎡  
 煉瓦壁：イギリス積み  
 屋根：寄棟造、棧瓦葺、木造トラス



棟札

1889年(明治22年) 竣工 ※築133年  
 1969年(昭和44年) 国指定重要文化財(建造物)に指定  
 同 大規模修理工事 着工  
 1971年(昭和46年) 同 完成



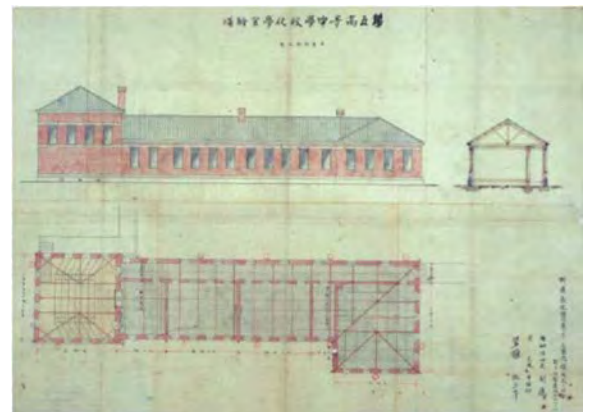
外観(南面)



創建当時(サインカーブより)  
[富重写真所蔵]

②化学実験場 [文化財名称：旧第五高等中学校 化学実験場]

構造・階：煉瓦造・平屋建て  
 建築面積：427.6㎡  
 延床面積：419㎡  
 煉瓦壁：イギリス積み  
 屋根：寄棟造、棧瓦葺、木造トラス  
 ※日本最古のドラフトチャンバー(木製)を有する



1889年(明治22年) 竣工 ※築133年  
 1969年(昭和44年) 国指定重要文化財(建造物)に指定  
 1971年(昭和46年) 大規模修理工事 着工  
 1972年(昭和47年) 同 完成  
 2014年(平成26年) 日本化学会より「化学遺産」に認定

階段教室



外観(北東面)



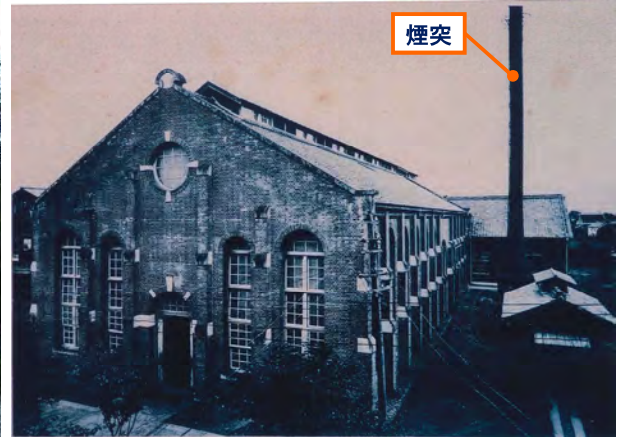
昭和44年頃(奥は五高記念館)

③工学部研究資料館〔文化財名称：熊本大学工学部(旧熊本高等工業学校)旧機械実験工場〕

構造・階：煉瓦造・地上2階建て	1908年(明治41年)	竣工 <b>※築114年</b>
建築面積：508.62㎡	1994年(平成6年)	国指定重要文化財(建造物)に指定 (附指定：工作機械11台)
延床面積：785㎡	1997年(平成9年)	工学部創立百周年記念を機に 工作機械を動態保存化
煉瓦壁：イギリス積み	2007年(平成19年)	日本機械学会より「機械遺産」に認定
屋根：切妻造、棧瓦葺、木造トラス		



外観（北東面）



煙突

創建当時

平成28年熊本地震による被害状況① 五高記念館

- ・外壁・内壁・アーチ梁は、高層部になるほど損傷が激しい。（1階よりも2階が損傷大）
- ・煙突8基中、4基が倒壊。残り4基も破損。（小屋裏でひび割れ等が発生）



煙突倒壊



開口部廻りから斜めに伸びるひび割れが多い

外壁ひび割れ



アーチ梁割裂・ずれ（2階）

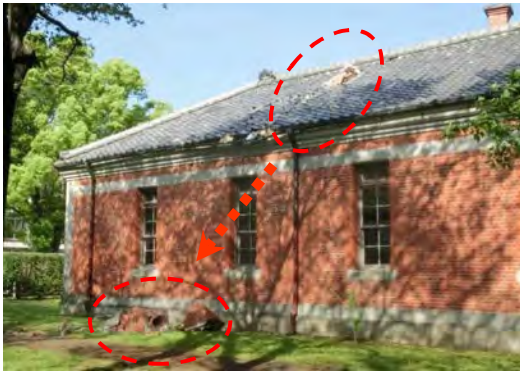


内壁割裂（2階）



ひび割れの多くは目地に沿って発生

- ・化学実験場は平屋建のため、ほぼ同じ構造で2階建の五高記念館に比べれば被害は少なかった。
- ・煙突7基中、1基が倒壊。残り6基も破損。(傾斜・ずれ・小屋裏でひび割れ等が発生)



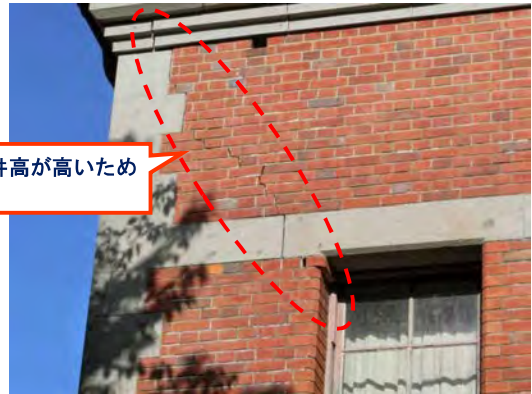
煙突倒壊



煙突傾斜・ずれ



煙突ずれ



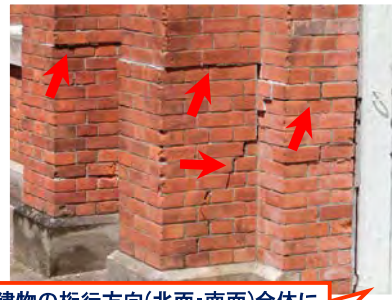
階段教室のみ天井高が高いため被害が大きい

外壁ひび割れ(階段教室)

- ・最も損傷が大きいのは、開口部の多い大空間構造で切妻造の工学部研究資料館



外壁(妻側)ひび割れ・ずれ



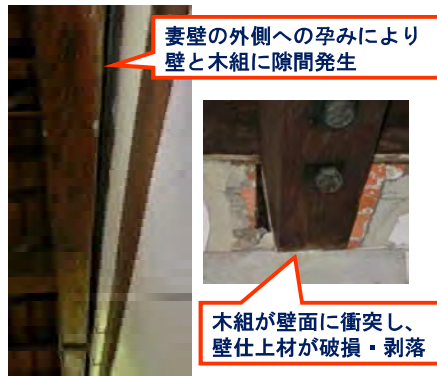
建物の桁行方向(北面・南面)全体に開口部(外部窓)の下端のレベルで水平方向に亀裂・ずれが発生(最大約2~3cmずれ)



外壁・柱ひび割れ・ずれ(桁行方向)



内壁ひび割れ・剥落・ずれ



妻壁の外側への孕みにより壁と木組に隙間発生



木組が壁面に衝突し、壁仕上材が破損・剥落



内部小屋組の斜材(方杖)はずれ

※写真は五高記念館



屋根解体



屋根棧瓦葺解体（瓦約26,000枚 全体の約5割が再利用可）



屋根棧瓦材 打音検査作業  
(打撃音の違いによって破損の程度を判断)



屋根野地板解体

※写真は五高記念館

2階 第2企画展示室

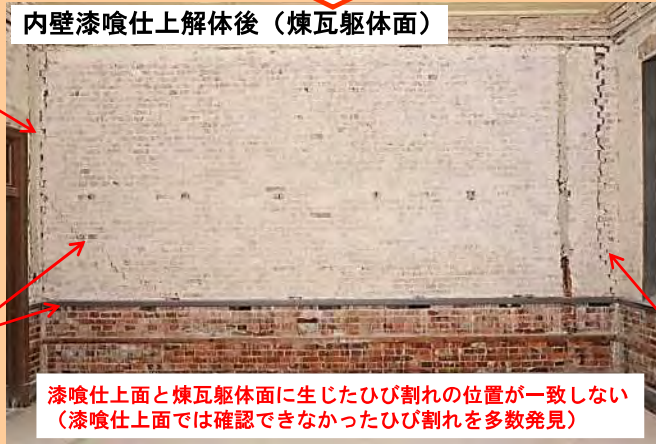
内壁漆喰仕上げ解体前（鼠漆喰仕上げ面）



漆喰仕上げ面は  
小さいひび割れ  
が広範囲に発生

漆喰解体前に確認できる  
煉瓦躯体面の大きなひび割れ

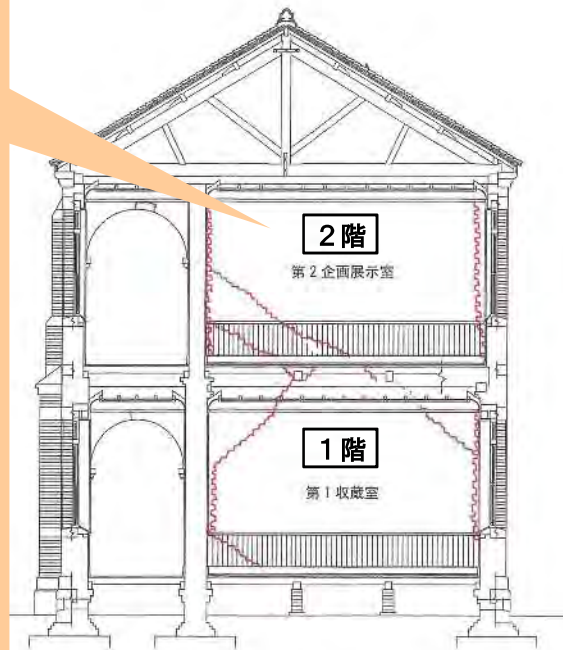
内壁漆喰仕上げ解体後（煉瓦躯体面）



隅部に新たな  
ひび割れを発見

斜め方向に新たな  
ひび割れを発見  
(1階まで達して  
いた)

漆喰仕上げ面と煉瓦躯体面に生じたひび割れの位置が一致しない  
(漆喰仕上げ面では確認できなかったひび割れを多数発見)



断面図

赤線：煉瓦躯体のひび割れ

ひび割れは1階まで  
達していた

※写真は五高記念館



復原教室 既存の黒板



各教室の既存黒板解体



復原教室 創建当初と思われる黒板



改修工事時に既存黒板裏に保存してあった黒板片

10

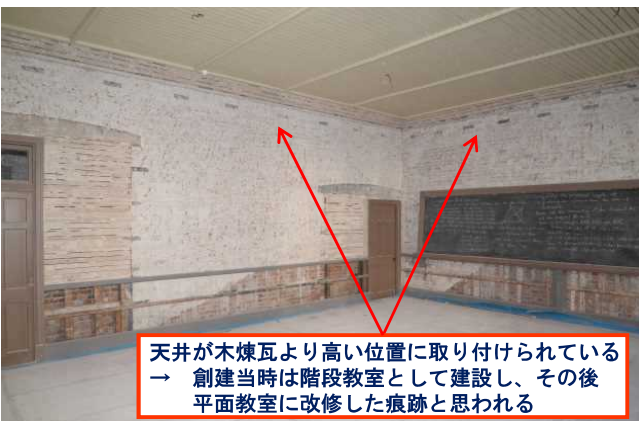
※写真は五高記念館



①復原教室南壁に残る階段の墨付け跡と漆喰下地

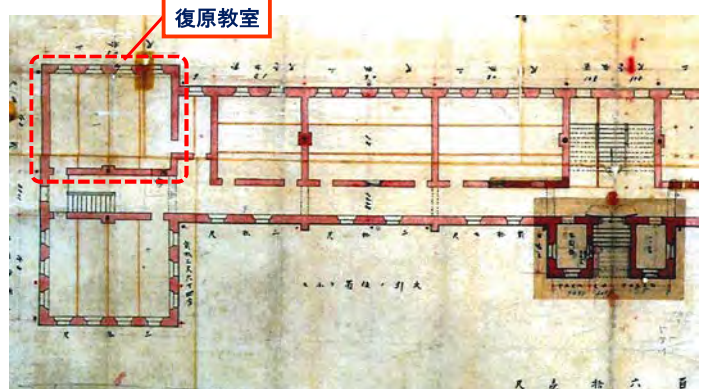


②復原教室北壁に残る階段の墨付け跡と漆喰下地



天井が木煉瓦より高い位置に取り付けられている  
→ 創建当時は階段教室として建設し、その後  
平面教室に改修した痕跡と思われる

③階段教室として、他の教室より天井を高くしている



④当初設計図面（平面図）

11

●煉瓦壁 ひび割れ補修



ひび割れ部にセメント系の材料  
(グラウト材)を充填



※写真は五高記念館

補修完了  
(充填完了)

未補修

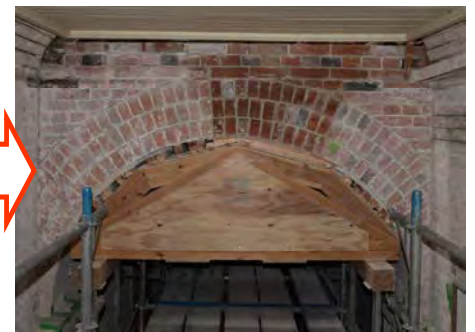
●2階廊下アーチ梁 煉瓦積み直し



落下の恐れのある部分を解体

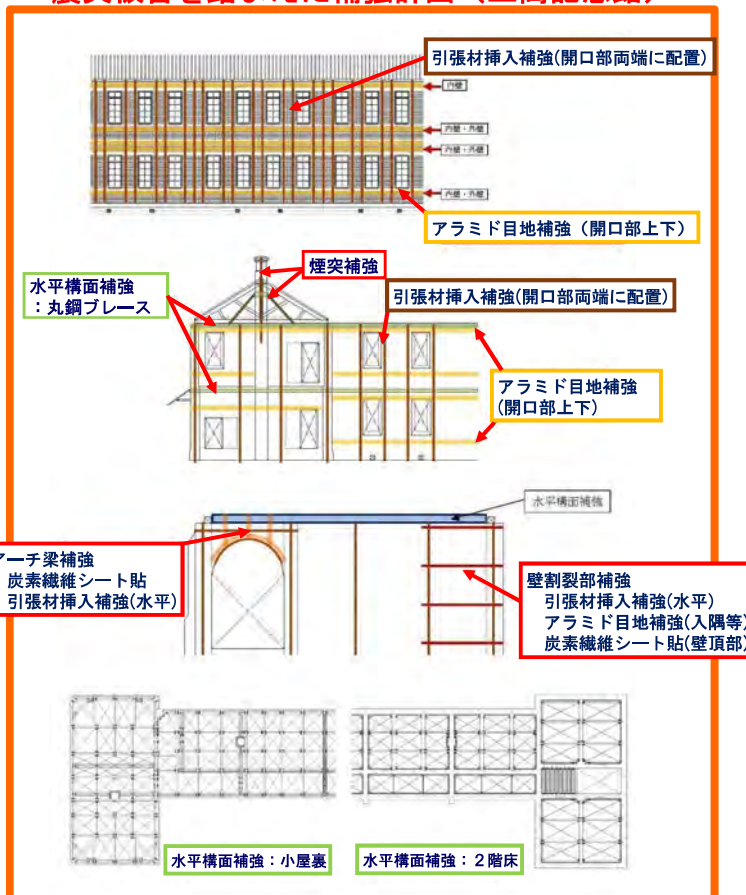


煉瓦積み直し



煉瓦積み直し完了

震災被害を踏まえた補強計画（五高記念館）



※写真は五高記念館

引張材挿入補強 ※煉瓦壁の鉛直方向の補強  
(壁頂部よりコア削孔し、ステンレス製の引張補強材を挿入)



アラミド目地補強 ※煉瓦壁の水平方向の補強  
(煉瓦の目地部分にアラミドロッドを挿入)





外観（南面）



外観（北面）



1階 情報プラザ



1階 復原教室

※創建当時の黒板や階段教室の痕跡等が見える状態で保存

14



外観（北西面）



外観（北東面）



階段教室



旧実験室

ドラフトチャンパー(木製)

15



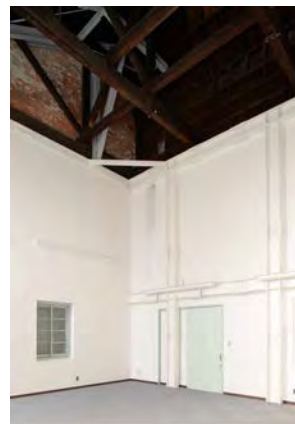
外観（北東面）



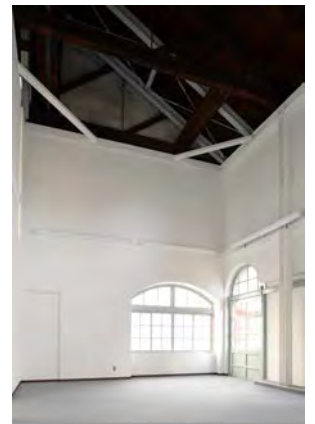
外観（北西面）



資料室（旧機械実験室）



旧蒸気機関室



旧ボイラー室

## 五高記念館 概要

## ◆第五高等学校(旧制)と建造物の歴史 (概要)◆

- ・ 1886年(明治19年)「中学校令」が公布され、全国を5学区に分け、それぞれに高等中学校の設置が決定する。九州は第5学区となる。(山口と鹿児島には別に設置)
- ・ 1887年(明治20年)熊本に第五高等中学校が設置される。(校名に数字が用いられ後にナンバースクールと呼ばれる)
- ・ 飽田郡黒髪村(現在地の熊本大学黒髪北キャンパス)に学校用地を取得し、建物が建設され1889年(明治22年)に竣工。
- ・ 1894年(明治27年)「高等学校令」が公布され、第五高等中学校は第五高等学校となる。
- ・ 1897年(明治30年)第五高等学校に工学部が設置される。
- ・ 1906年(明治39年)工学部が独立し、熊本高等工業学校となる。
- ・ 1921年(大正10年)学年歴の開始が4月に改まる。
- ・ 1949年(昭和24年)熊本大学が開学し、第五高等学校ほか前身校が包括される。
- ・ 1950年(昭和25年)第五高等学校閉校(開校から63年)
- ・ 1969年(昭和44年)本館、化学実験場、表門が国の重要文化財に指定される。
- ・ 1993年(平成5年)旧第五高等学校本館を五高記念館として公開(週末のみ)
- ・ 2006年(平成18年)五高記念館が週日開館となる。

## ◆熊本高等工業学校(旧制)と建造物の歴史 (概要) ◆

- ・ 1897年(明治30年)第五高等学校に工学部が設置される。
- ・ 1906年(明治39年)工学部が独立し、熊本高等工業学校として開校。(熊本大学黒髪南キャンパス)
- ・ 1909年(明治42年)熊本高等工業学校の機械実験工場が竣工。
- ・ 1944年(昭和19年)熊本高等工業学校の名称が熊本工業専門学校に改められる。
- ・ 1949年(昭和24年)熊本大学が開学し、熊本工業専門学校も包括される。
- ・ 1951年(昭和26年)熊本工業専門学校閉校(五高工学部設置から54年)。
- ・ 1970年(昭和45年)工学部中央工場が竣工し、機械実験工場は閉鎖となる。
- ・ 1977年(昭和52年)工学部創立80周年記念事業により、旧機械実験工場を改修し工学部研究資料館として開館。
- ・ 1994年(平成6年)工学部研究資料館が国の重要文化財に指定される。

#### ◆熊本大学と前身校について◆

- ・ 1947年（昭和22年）第二次大戦の敗戦後、新たな教育制度「教育基本法」が作られ、戦前に各県にあった高等教育機関を包括し新制の国立大学となった。（各県の国立大学の学部構成が違うのはこのため）
- ・ 熊本県では、熊本医科大学、熊本薬学専門学校、熊本工業専門学校（熊本高等工業学校）、熊本師範学校（熊本県師範学校、熊本県女子師範学校）、熊本県青年師範学校と第五高等学校が一緒になり熊本大学となった。
- ・ 前身校は1949年から1951年（昭和24～26年）にかけて閉校した。
- ・ 第五高等学校最後の入学は1948年（昭和23年）。最後の五高生は1年間だけ五高に在籍し、翌年、新制の大学に入学した。
- ・ 1948年（昭和23年）五高最後の入学には女子4名の五高生が誕生した。（理科2名、文科2名）

#### ◆熊本大学の文化財（一般名称・通称と文化財名称）◆

##### 国指定重要文化財（建造物）

##### 第五高等学校関係

- ・ 五高記念館・旧制五高本館……旧第五高等中学校本館
- ・ 化学実験場・五高化学教室……旧第五高等中学校化学実験場
- ・ 赤門……旧第五高等中学校表門

##### 熊本高等工業学校関係

- ・ 工学部研究資料館・旧機械実験工場……熊本大学工学部(旧熊本高等工業学校)旧機械実験工場

##### 登録有形文化財（建造物）

- ・ 熊本大学本部……熊本大学本部（旧熊本高等工業学校本館）
- ・ 山崎記念館・医学部山崎記念館……熊本大学医学部山崎記念館（旧熊本医科大学図書館）

## ◆第五高等学校の人々◆

### 著名校長と教授

嘉納治五郎（かのうじごろう） 第三代校長  
秋月胤永（あきづきかずひさ） 漢文 倫理  
夏目金之助（なつめきんのすけ 漱石） 英語  
Lafcadio Hearn（ラフカディオ ハーン 小泉八雲） 英語

### 著名卒業生、在学

佐藤榮作（さとう えいさく） 内閣総理大臣  
池田勇人（いけだ はやと） 内閣総理大臣  
重光 葵（しげみつ まもる） 外務大臣  
林 市蔵（はやし いちぞう） 民生委員制度の父  
一万田尚登（いちまだ ひさと） 日本銀行総裁  
森永貞一郎（もりなが ていいちろう） 日本銀行総裁  
上塚周平（うえつか しゅうへい） ブラジル移民の父  
村川堅固（むらかわ けんご） 歴史学  
八波則吉（やつなみ のりきち） 国語学 近代的国語教科書編纂  
大内兵衛（おおうち ひょうえ） 経済学（マルクス経済学）  
向坂逸郎（さきさか いつろう） 経済学（マルクス経済学）  
宇野哲人（うの てつと） 漢学  
寺田寅彦（てらだ とらひこ） 物理学 随筆家  
内田虎六郎（うちだ ころくろう 下村湖人） 教育家 作家 下村湖人（しもむら こじん）  
梅崎春生（うめざき はるお） 作家（直木賞受賞）  
木下順二（きのした じゅんじ） 劇作家  
徳広巖城（とくひろ いわき） 作家 上林暁（かんばやし あかつき）  
永畑道子（ながはた みちこ） 作家  
犬養 孝（いぬかい たかし） 国文学（万葉集）  
森本治吉（もりもと はるよし） 国文学（万葉集） 歌人（じきち）  
牛原清彦（うしはら きよひこ） 映画監督 牛原虚彦  
森崎 東（もりさき あずま） 映画監督  
渡辺 仁（わたなべ じん） 建築家 銀座和光ビルの設計者  
山本健一（やまもと けんいち） 東洋工業（現マツダ）社長 ローターエンジン開発  
西村龍介（にしむら りゅうすけ） コニカ株式会社（現コニカミノルタ）社長 カラーフィルム開発  
蟻田 功（ありた いさお） WHO 天然痘根絶対策本部長 世界から天然痘を根絶  
渡辺京二（わたなべ きょうじ） 日本近代史家 評論家  
萩原朔太郎（はぎわらさくたろう） 詩人（1907～1908 に在学）※卒業はしていない

## キャンパスミュージアム構想について

2022年1月12日

熊本大学キャンパスミュージアム推進室

### <計画の概要>

熊本大学は令和4年度から開始される第4期中期目標・中期計画の一つとして、全キャンパスを連結・包括するキャンパスミュージアムの創設を掲げている。このため、令和5年度を目途に博物館の管理と運営のための組織作りを行い、教育・研究・地域貢献の3つを柱とした事業を開始する。さらには、年次ごとにキャンパスや各種施設の整備を進め、キャンパスミュージアム全体の完成を目指す。

### <目的>

大学が保有する歴史的建造物・学術的財産を人材養成および研究推進に活用し、国内外からの訪問者にも開放・公開することで、大学の価値や存在意義について社会的な理解を得、世界の歴史・文化の発展に寄与することを目的とする。

### <組織>

全学の博物館相当施設・研究機関と連携し、第一次学術資料の収蔵・管理・公開を行う（ポンチ絵参照）。実物資料の公開とともに全キャンパス・施設を連結するデジタル技術を使用した展示・情報公開を行う。

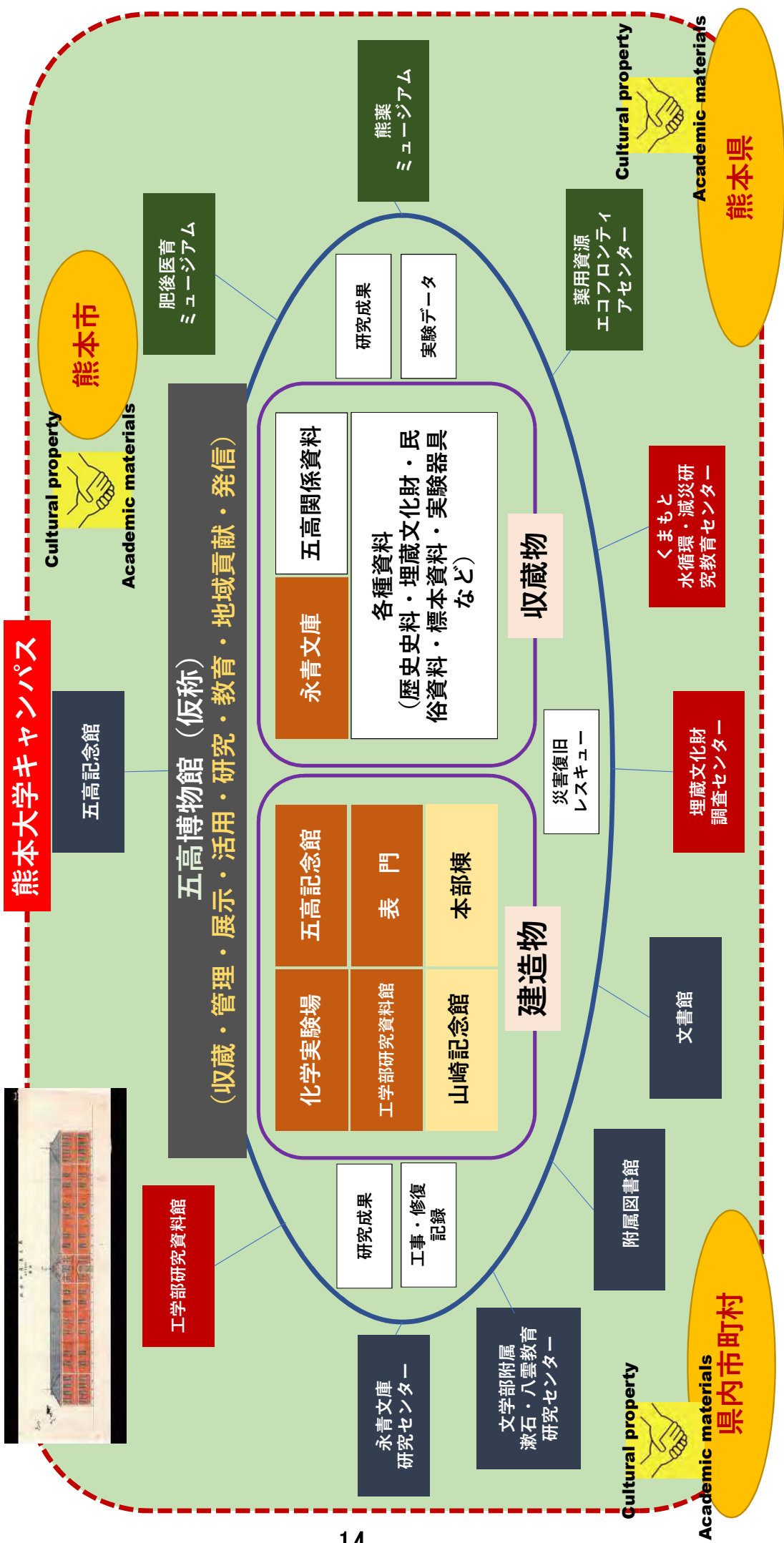
### <特質>

黒髪キャンパスの五高記念館・化学実験場・表門・工学部研究資料館などの重要文化財を含む地区は大学のシンボルゾーンとして、歴史的景観を保持した空間として再整備し、博物館と一体化を図りながら、見せる、感じる、人が集まる、魅力ある空間を創設する。

### <見込まれる効果>

キャンパスミュージアムを通じて、熊本大学が目指す、地域・世界に開かれた大学、見える大学、発信しつづける大学を実現する。学生、市民、研究者、OBなどの様々なステークホルダーがキャンパスに集い、大学の歴史や景観を肌で感じ、大学の研究・教育の歴史や未来を知ること、熊本大学のもつ様々な魅力を再発見し、さらに親しみを感じる事が可能となる。これは、地域・世界と共生・発展する熊本大学の新たな礎となりうる。

ミュージアムコンセプト：熊本大学のPast（過去）・Present（現在）・Future（未来）



プレスリリース一覧（12月分 研究・イベント関係）

番号	部局等名	代表者名（担当名） 及び職名	件名	リリース日	備考
1	総務部総務課	—	熊本大学×ニューコ・ワン共同企画「史上最大の電波望遠鏡で解き明かす宇宙の謎」展を開催します	2021.12.3	
2	国際先端医学研究機構	Sheng Guojun 教授	「原腸形成による人体の構築に関する考察」がScience誌に掲載されました	2021.12.6	
3	教育研究支援部 自然科学系事務課	—	先進軽金属材料国際研究機構開所記念式典及びキックオフシンポジウムの開催について	2021.12.7	
4	学生支援部国際教育課	—	熊本大学多言語文化総合教育センター主催『現代のグローバル社会の課題に関する学際的国際シンポジウム』の開催について	2021.12.7	
5	教育学部附属特別支援学校	—	熊本大学教育学部附属特別支援学校中学部作品展「わたしたちのいろろ」の開催について	2021.12.8	
6	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	佐藤 賢文 教授	ヒトT細胞白血病ウイルスがCD4+T細胞のがん化を引き起こすプロセスを解明	2021.12.9	共同リリース 代表：熊本大学
7	産業ナノマテリアル研究所	熊添 博之 特任助教 赤井 一郎 教授	世界初！元素種を識別して材料のミクロ構造を解析するノイズ耐性の高い新解析法を開発 —将来的なデバイス材料のミクロ構造研究に活路を開く—	2021.12.10	共同リリース 代表：熊本大学
8	大学院生命科学研究所	吉田 遼司 准教授	口腔がんが放射線耐性を獲得する新たな仕組みを解明 —新たな治療法開発に期待—	2021.12.13	
9	国際先端医学研究機構	三原田 賢一 特別招聘教授	赤血球を作り出さず不死化ヒト赤芽球細胞株「ELLU細胞」を樹立	2021.12.14	
10	学生支援部入試課	—	令和4年度大学入学選抜大学入学共通テストの報道取材について	2021.12.14	



11	教育研究支援部図書館課	—	熊本大学附属図書館貴重資料展（オンライン）「廃藩置県と熊本藩」同時開催 公開講演会／永青文庫セミナーの動画を公開しました	2021.12.17	
12	大学院先端科学研究部	小林 牧子 准教授	盲学校用教材開発普及サークルSoleilが開発した「ふれあいどうぶつしょうぎ」を全国の盲学校へ寄贈します	2021.12.17	
13	大学院先端科学研究部	細野 高啓 教授	幕末・維新に用いられた銃弾の鉛はどこから？～鉛同位体比から鉛資源の流通を復元～	2021.12.21	
14	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	上野 貴将 教授	SARS-CoV-2ラムダ株のウイルス学的・免疫学的性状の解明	2021.12.22	共同リリース 代表：東京大学
15	教育研究支援部図書館課	—	熊本大学所蔵「松井家文書」の修復事業が第3回（2021年度）三菱財団文化財保存修復事業に採択されました	2021.12.28	